

「心ってどこにあるのでしょう」をよんで

泉南市立新家小学校 一年 佐々木 陽花

わたしは、はじめてこのほんのだいめいをみたとき、「ぜったいしんぞうにきまつてるやん。」とおもいました。なぜかというとき、びつくりしたときは、しんぞうがドキッとするし、「さいのおとうとが、わたしのほうをみてにこつとわらつてくれると、しんぞうがキユンとするし、ぴあののはつびょうかいできんちようすると、しんぞうがドキドキするからです。

でも、ほんをよんでいると、ころはほつべにあつたり、あたまにあつたり、おなかにあつたり、いぬのしつぽにあつたり、なみだやこえのなかにあつたり、いろいろなところにあつりました。わたしは、そんなかんがえかたもあるんだなとおもいました。

わたしのころがいつばいうごいたのは、いちねんせいになつて、はじめてしょうがっこうへいったときです。しらないともだちばかりで、なかなかかまにはいれず、ドキド

キしていました。でも、おもいきつてかえるまえに「いっしょにあそぼう。」といつてみました。いうまえは、しんぞうがドキドキするだけじゃなく、からだもカチカチしていたし、でもつめたくなりました。ともだちは、「いいよ。あしたからいっしょにあそぼう。」といいました。わたしは、うれしくて、ころがにこつとしたきぶんになりました。からだもほわんとやわらかくなつたし、でもあたたかくなりました。

わたしは、やつぱりこのほんみたいに、ころはいろいろなところにあるのかもしれないとおもいました。

わたしも、これから、ともだちのころをにこにこできるひとになりたいです。

「心ってどこにあるのでしょう」

作 こんのひとみ
絵 いもとようこ

金の星社